



ありがとう

100年分の感謝と101年目の約束

おかげさまで高松建設は、2017年10月
高松建設を支え、育ててくださった
次の100年も、その
皆様の期待に応え続けていく

に100周年を迎えることができました。
すべての方への感謝を胸に、
また次の100年も、
ことを、ここにお約束いたします。

※ 高松建設、高松テクノサービス、高松エステートの社員総数(10/1現在)

感謝の御挨拶

高松コンストラクショングループ
取締役名誉会長

高松 孝之



高松 孝之

100年間貫いた「お客様第一主義」を徹底し
着実に社会的責任を果たします。

私たち高松建設は、2017年10月をもちまして創業100周年を迎えることができました。これもひとえにお客様、関係者の皆様のご愛顧とご支援の賜物と、により御礼申し上げます。

振り返りますと、1917年に父の高松留吉が大阪市淀川区で創業し、少しづつ規模を拡大してまいりました。しかし59年に父が急逝し、私と弟の幸育が急きょ家業を継ぐことになったのです。昨日まで学生服を着ていた2人がお取引先の工場や会社にごあいさつに回る中、多くのお客様から温かい励ましの言葉をいただき、そのおかげで仕事を続けることができました。

「しっかりやりなさい、応援してあげるよ」と力強く背中を押してくださったお客様や、ある会社では社長様自らが幹部の部長様を集めて「高松の息子がやるのなら、ひとつ応援してやろう」と声をかけてくださいり、全社を挙げて支援してくださいました。

お客様のご厚情、心の温かさを知るこの得難い経験は、高松建設の「お客様第一主義」の原点となっています。お客様のお力添えがあってこそ、高松建設が存在しうる。これからも深い感謝の思いを持ち、一層の「お客様第一主義」を貫く覚悟であります。

100を迎えた高松建設は、グループ19社、社員3900人の規模へと成長し、創業当時の家業とは異なる、企業としての社会的責任の大きさを感じております。私たちが携わるのは、長期間にわたり暮らしやビジネスの基盤となる大切な建物であり、40年経っても満室稼働なさっているオーナー様がいらっしゃるほどです。しかし耐用年数が長い反面、工業製品等とは異なり、手作りであるがゆえに均一性を保つのは大変です。だからこそ私たちは、より完成度の高い建物を一つひとつ丁寧に、総力を挙げて作り上げています。メンテナンスについても責任の重さを自覚し、オーナー様、入居者様にご満足いただけるサービスをご提供しています。

これら社会的責任を果たすためには、直接お客様に対応する個人の力が大きいと考えます。社員それぞれが自分の使命を自覚し、お客様に深い感謝の思いを持って高品質なサービスをご提供できるよう、教育にも一層の力を注いでまいります。

創業100年と申しましても、こうした時間の経過が長いビジネスですから、100年はあくまでも通過点に過ぎません。この先150年、200年を考えながら、お客様の大切な財産である建物を守り、維持するために、さらなる努力が必要だと考えております。

これからもお客様とより良いお付き合いを重ね、企業として成長を目指してまいります。引き続きご指導、ご報捷を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

想いを築く。心に響く。



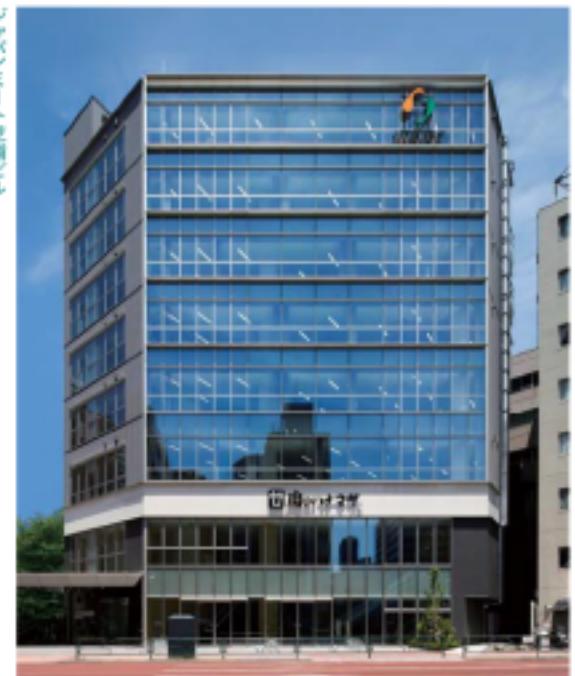
皆様の暮らしに寄り添う

高松コンストラクショングループの仕事

次の100年も一丸となって
高松コンストラクショングループは、高松建設ならびに青木あすなろ建設を中心とした、
建築事業、土木事業、不動産事業の3つの事業を柱とする建設業の専門集団です。
この街並も、あの景色も、皆様の暮らしのすぐそばが、私たちのフィールドです。
人に、社会に、ひいては次の世代のために、あくなき挑戦は続きます。



建築時はもちろん、長期的視点の事業提案を行います。



オフィスビルは理念や姿勢をコンセプトに込めて。

企業のイメージを向上させ、街の景観をも担うデザイン。経営コストを削減できる最新の省エネルギー設備や、明るく快適で機能的な空間。これらをうまく融合させることで、価値を生み出すビルを実現しています。



狭小地でも施工できる高度な技術力でホテルを手がける。大切なのは、お客様にもう一度来たいと思わせる「感動体験」。立地やブランドコンセプトなどの条件を踏まえ、インテリアやプロダクトなどの専門家と共に、独自性のある施設をお届けしています。



福祉のこれからと、るべき姿を考えた高齢者施設。

高齢化社会に相応しい、本当に価値ある施設を建てたいと、高松エステートと協力し、企画設計・施工から介護サービス運営まで一括サポートする高齢者向け住宅事業にも注力しています。



共に生き、成長していく地域に根ざした病院。

「入院」ではなく「住まい」という観点を基本に。ストレスを感じさせない快適性や機能性はもとより、患者様やスタッフの安全性に配慮した施設のご提案を行っています。



作業環境を最適化し、将来ニーズも見据えた工場。

工場もまた土地活用のひとつであり、未来へつながる大切な資産。作業形態、収納量、道路環境、法的制約、労働環境などの条件をクリアし、将来の条件変化も視野に入れた全体計画をご提案しています。



建築基準法よりも厳しい自社基準を設けた賃貸マンション。

オーナー様の想いを汲み取った、唯一無二のオリジナルマンションを。耐久性や耐震性はもちろん、高いクオリティとデザインの追求は、入居者様からも高いご支持をいただいています。

国が定める耐震基準よりも15%強度を高めた耐震性の追求。また、グループ会社である高松エステート、高松テクノサービスを通じ、建てた後のサポートも万全の体制で臨んでいます。

常にお客様の事業を第一に考えながら、提案力やデザイン力に磨きをかけ、「お客様に喜びと幸せを感じて貢える会社」を目指して、次の二〇〇年へ向けて積極的に挑んでいきたいと思います。



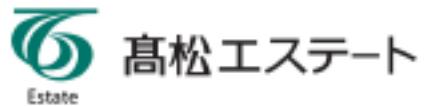
ア

イ・ディアが土地を活かす

スローガンのもと、高松建設は

していくために、現状の問題解決を総合的に提案しています。重要な複数は、数十年先を見据え、建物のボテンシャルを上げておくこと。そのために当社は、企業理念に「C&Cカンパニー」を掲げています。土地活用や賃貸経営のノウハウを「提供するコンサルタント、設計から施工まで自社一貫体制で行い、高品質な建物をつくるコンストラクト」を意味します。





大阪 | 東京

不動産総合コンサルタント



オーナー様と入居者様の笑顔のために、総合管理会社としてあらゆる角度からマンション経営をサポートしています。

管理のプロ集団として、マンション経営を盤石にする。



引き続き、オーナー様と密なコミュニケーションを図りながら、入居者の満足度も向上させることで、高い稼働率の達成に努めています。そして、地域密着の強みを活かした管理・運営で、オーナー様の長期的な安定経営のサポートに最善を尽します。



高松建設が施工した物件の管理会社として、高松エステートは「入居募集」「管理」「工事」「保険」などの業務からマンション経営をお手伝いしています。オーナー様の所有マンションの資産価値、収益性を最大限に引き出すために、入居募集や管理を優先業務としながら、全ての管理を代行する一括借上の推進や築年数の古い既存マンションの競争力向上のために、大小さまざまなリノベーションのご提案にも注力しています。



大阪 | 東京

メンテナンス・リフォーム



飲食店が入っていた建物をホテルへリノベーションした実例。マンションへ転用可能な間取りに設計し、将来的な経営を見据えたプランをご提案しました。

徹底したオーナー様目線で、細やかなアフターメンテナンス。建物見守り隊であり、建物ドクターでもある高松テクノサービス。治療（診断、修繕）だけではなく、長期的な目で検診（定期点検）、予防（改修提案）まで、高松建設が施工した建物を中心に建物のケアを行っています。また、24時間365日、建物・設備のトラブルをサポートする「ピースフル24」、さまざまなお困りごとをお手伝いする「マルチワーカー修繕サービス」にも注力しています。

建設業は今、古くなつたら建て直す「スクランブル&ビルト」から既存の建物の「デザインや間取りをつくりかえる」「リノベーション・再生」へと変化してきています。時代の流れから見ても、当社が担う役割は重要度が増しています。今後もより一層、高い設計力や施工力、そして提案力を向上させ、オーナー様のご要望に応える会社を目指します。



高みへの
せきにん



サーモカメラ
被写体の温度差を撮影することでできるカメラ。外壁の温度差からタイルの浮きをチェックします。



打診棒
建物診断の必需品。外壁タイルなど調査箇所を球状の先端で、叩いたり転がして、音の変化から浮きを判断します。



クラックスケール
外壁のクラック（ヒビ）幅を測る専用スケール。クラックに合わせた適切な改修を行います。



視覚的には見えない
建物の問題に向き合う!



住之江工芸

インテリアリノベーション

さまざまな内装空間を、ラグジュアリー空間へ。



NCルーター

CADデータを入力すれば、曲線など複雑な加工を機械が自動で行います。



ラフォーレ南紀白浜



和泉・り社本社

住之江工芸は、ブランド
ショップ・ラグジュアリー

ホテル・高級住宅・オフィス内など。

高級内装工事を専門に手がけて

います。当社の強みは日本有数

規模の木工工場を持ち、デザイン

提案から設計→制作図対応→

自社工場生産→現場内装→施工

管理までワンストップで対応でき

ることです。

ワープロやトリプルームから大型

施設までイメージに合わせた高品

位な空間づくりにこだわり、家具・建

具といったティールに至るまで

トータルに「コーディネート」「本物」

を知るからこそできる「本物」の

クオリティで、「ニーズ」に応えるだけ

でなく、新たなニーズやリピートを

つくり出したい」と考えております。

JPホーム

RC造戸建住宅

鉄筋コンクリート造による、ただ一つの邸宅を。



JP ホームは、鉄筋コンクリート
住宅を専門に設計施工する建設会社です。その実績により、
専任の建築士が「想い」と「丹念」に
設計していく自由設計に力を入れ、
お客様にご提案しています。施工に
おこづかう人の手によるカスタムメイド
の柔軟な対応にこだわり、世界に
一歩しかない邸宅を生み出します。
近年、医療建築や店舗併用住
宅、小規模多層階建築など、コ-ク
リート造の堅牢性を活かした建築
物の需要にも取り組んでいます。



由緒や伝統を色に表現する匠の技



オリジナル基礎工法
JPホームの基礎はペタ基礎
よりさらに強靭な、建物と
一体となったオリジナル
基礎「TFB工法」を採用。

基礎がちがう
JPホームが誇る
オンリーワン工法!

中村社寺

神社仏閣建築(中部圏)

千年以上もの寿命を誇る木造建築の番人として。



高山別院本堂(屋根を瓦屋根から銅板屋根に葺き替えた)

中村社寺は、社寺造営の
ため京より招かれた
初代当主により西暦970年
に創建されました。

時代に応じた改修の提案や、
守り続け、企業としても存続し
続けることを目指しています。
これまで、多くの試練、困難を乗り越え
ながら、四天王寺のみならず金剛組は
全国の社寺を手がけてきました。
今日まで、多くの試練、困難を乗り越え
ながら、四天王寺のみならず金剛組は
留まり寺を守ることを命にうつて、以降
全国の社寺を手がけてきました。

師から弟子へ、頃々と受け継がれてきた技術
と心が全国の社寺を支えています。

西天王寺建立を監視した聖徳太子と吉大工

の官寺「四天王寺」建立のために百濟

より

3人

の工匠

が招かれたといいます。

そのうちの一人こそ、金剛組を創業

した金剛家初代当主である重光です。

四天王寺の建立後も、彼はこの地に

留まり寺を守ることを命にうつて、以降

全国の社寺を手がけてきました。

今日まで、

多くの試練、困難を乗り越え

ながら、

四天王寺のみならず金剛組は

留まり寺を守ることを命にうつて、以降

時を経て2006年、金剛組は
高松コ-ストラクショングループの
一員となり、伝統の技術と心、ならび
に従業員・吉大工といった人材を
すべて引き継いで新たなスタートを
切りました。数百年の歳月に耐えう
る金剛組の技術と高松建設の強み
に従事員・吉大工として伝統を
守り続け、企業としても存続し
い技術を常に追求し、社寺建築を
守り続け、企業としても存続し
続けることを目指しています。

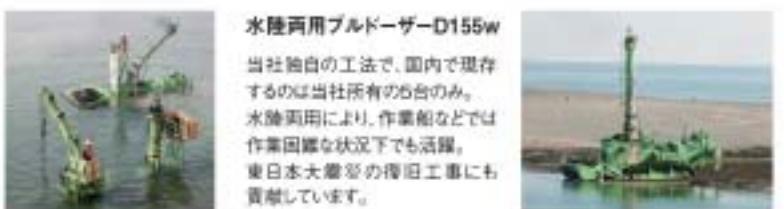
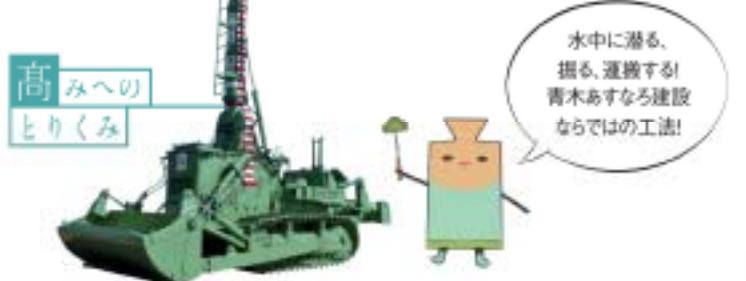
守り続け、企業としても存続し
続けることを目指しています。守り続け、企業としても存続し
続けることを目指しています。守り続け、企業としても存続し
続けることを目指しています。守り続け、企業としても存続し
続けることを目指しています。守り続け、企業としても存続し
続けることを目指しています。守り続け、企業としても存続し
続けることを目指しています。守り続け、企業としても存続し
続けることを目指しています。守り続け、企業としても存続し
続けることを目指しています。守り続け、企業としても存続し
続けることを目指しています。守り続け、企業としても存続し
続けることを目指しています。

中村社寺は、社寺造営の
ため京より招かれた
初代当主により西暦970年
に創建されました。

中村社寺は、社寺造営の
ため京より招かれた
初代当主により西暦970年
に創建されました。中村社寺は、社寺造営の
ため京より招かれた
初代当主により西暦970年
に創建されました。

優しい社会は強い基盤から。
あらゆる建築ニーズに応える、未来志向型集団。

土木技術では、
トンネルなどを手がける一方、
震災復興にも寄与。



構造物の縦部に宿る、
確かな建築技術。

社会環境と自然の快適な
融合という課題に真摯に
取り組むことを企業理念に。
プロジェクトの企画から
設計・監理・施工・メンテ
ナンスに至るまで、一貫した
システムで皆様のご要望にお応えしています。

大 型土木工事および商業施設、
そして超高層ビルの設計
施工など、都市開発における建設
に青木あすなろ建設は広く携わって
います。今日よりも明日、明日よりも
未来を見つめた企業姿勢を重んじ、
「技術」「サービス」に加え、他社には
ない「特徴」を持つ建設会社として、
時代や環境によって変化する建設
ニーズに応えるべく尽力しています。
当社は他社との差別化が図れる
固有技術の開発・改良に継続的に
取り組んできました。それらの成果
は現在、耐震やインフラの見直し、
自然エネルギーなどの得意分野に
おいていかんなく発揮されています。
すべては人々の暮らしと社会の
ために、青木あすなろ建設はいわば、
未 来志向型集団です。常に先を
見据え、成長と変革をモットーに、
総合技術力のレベルアップを図り
「イノベーション」に挑戦していきます。

東興ジオテック

雄安·爆破工事



特殊な仕事を幅広く。社会を影から支える立役者。



碧田空港の整状化計画工事



東興ジオテックの展開する事業は特殊なものばかりです。たとえば「法面事業」。自然や景観に配慮しながら、道路工事などに伴つて出現する斜面の崩落防止対策を講じています。ほかにも、地盤改良や液状化対策を行う「地中事業」や、掘削現場などで岩盤を破碎する「ロック事業」などがあります。

ふだんの暮らしの中では、なかなか意識する機会はないかもしれません。が、これからも生活基盤整備や環境保全などの事業を通して社会に貢献していきます。



みらい建設工業

總述·海上十事

大規模工事で日本のみらいをつくる。



青木マリーン

附錄十一本工單

海を舞台に、土木と輸送で社会に貢献。



神　阪港ポートアイランド・関西国際空港や中部国際空港、羽田空港など、誰もが知っている人工島の海上埋立工事に従事してきた青木マリーン。その一方で、コンテナや大型の建設機械、セメントの副材料などを輸送する海運事業も展開している異色の企業です。海上土木と海上輸送のエキスパートともいってべき青木マリーンですが、東京では河川の護岸工事や橋梁工事なども行っています。

日本は海に囲まれた海洋国家です。培つてきた高い技術力と保有する船舶の機材力を活かし、幅広い分野の工事にお応えすることで、これからも日本の海洋事業に貢献していきたいと思います。そして、いすれは土木や海運だけにとどまらず、エネルギー分野も視野に入れた複合的な海上事業を展開していきます。

「みらい建設工業は、日本有数の「マリン・コンストラクター(海洋土木建設業者)」として、北は北海道から南は沖縄に至るまで、日本各地で大規模な工事を展開しています。一例としては、国内各地の港湾にまつわる護岸工事や防波堤工事、東北自動車道や新名神高速道路のインフラに関する建設工事。

羽田空港や中部国際空港、関西国際空港の海上空港・海上滑走路の建設。そして、宅地造成や区画道路の整備など都市計画に関わる工事などが挙げられます。

保有する多種多様な技術を活かして、これからも社会への貢献と新たな生活環境の提案を目指していきます。

神　直港ポートアイランドや六甲アイランド、関西国際空港や中部国際空港、羽田空港など、誰もが知っている人工島の海上埋立工事に従事してきた青木マリーン。その一方で、コンテナや大型の建設



オフィスビル改修

ビルのスペシャルアドバイザー。



ロビーのリノベーション(窓が開いた)



外観のリノベーション(窓が開いた)



外観のリノベーション(窓が開いた)

工 ムズは、ビルのリノベーションを専門に行う施工会社です。日々発生する建物のマイナートラブル（鍵の交換など）から、ビル全体の大規模なリニューアルまで、あらゆる建物をトータルにサポートしています。エムズの使命は、建物のオーナー＆ユーザーの両者が満足できる魅力ある建物にグレードアップさせること。そのため、施工はもちろん、調査・計画・設計にも力を入れ、迅速で柔軟な提案・対応を心がけています。

豊富な知識とノウハウを武器に、「こんなことでも任せて安心」と言われる、リノベーション業界のオンラインを目標しています。



文化財の発掘調査

古の叡智を、次代へつなぐ。



小野遺跡(大原町鹿屋川中)



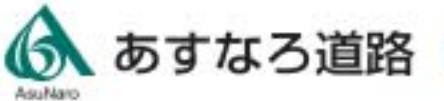
古墳工所跡(津浦町御野原中)



手作り使用による遺物検出

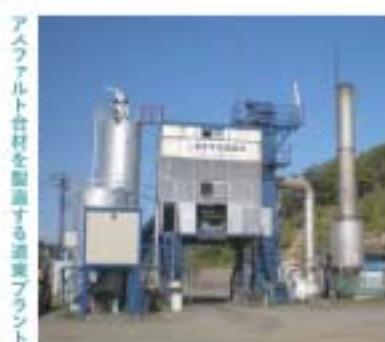
島 田組は、貴重な埋蔵文化財の発掘調査・分析・保存移築に取り組む会社です。近年では、真田丸の発掘調査も行い、その技術力の高さを改めて実証しました。

今後は、史跡などを保存し、次世代へ確実に伝える史跡整備事業にも力を入れていくことで、文化財を生かした町づくりや観光資源づくりに貢献したいと考えています。



舗装工事

道路をつくりながら、北の大地の豊かな未来をつくる。



アスファルト合材を製造する沥青プラント



アスファルト合材をリサイクルして舗装修繕した二級国道244号

北 海道で道路をつくり続けて40年以上。あすなろ道路は、地域に根ざした道路舗装工事の老舗企業です。道路は人の暮らしや社会を支える大動脈。たたアスファルトを舗装するだけでは、社会のニーズには応えられません。あすなろ道路では走行時の騒音を抑え、水はねや水煙も防止する「排水性舗装」や、輻射熱を軽減してヒートアイランド現象を抑える「保水

性舗装」、製造時のCO₂発生を低減する「中温化舗装」など、安全で環境にやさしい道路づくりを推進しています。また、自社で舗装材料の製造から販売までを行い、舗装技術全般の開発にも力を入れています。

近年では、道路のバリアフリー工事など、道路舗装の枠を超えた幅広い建設分野への拡大を目指しています。



新潟みらい建設

土木・舗装工事

みらいへの道を新潟に築く。



新 新潟みらい建設は、社名の通り新潟に根ざした企業として、大小を問わず道路の舗装工事を行い、冬季には除雪業務も請け負います。テニスコートや人工芝の施工も手がけるなど、きめ細かな活動で地域の発展を支えています。

新潟

みらい建設

創業期

01 まだ牛や馬が道ゆく時代

創業当時の大阪・十三は、まだまだ建物も少なく、のどかな田園風景が広がっていました。建物といつてもほとんどが木造で、RC造の建物が出てきたのは阪急百貨店(昭和4)、北野高校(昭和6)くらいのもの。昭和 創業者 高松留吉
15年頃でも、まだ街中を自動車と牛車・馬車が入り混じって通っていたような時代でした。



若き日の高松孝之(左)と高松孝吉(右)

1959

(昭和34)

事業が軌道に乗り始めた矢先、
高松留吉が急逝
急速、高松孝之と高松孝吉が事業を継承

1949

(昭和24)

「大和木材」を設立し、製材業も開始

1931

(昭和6)

建築資材問屋「土農商店」を併設

1917

(大正6)

10月、高松留吉が「高松組」を創業
(大阪市 旧東淀川区十三西之町)

小さな町の建築屋として仕事に励む日々。
戦争や創業者の急逝など苦難が続く。

03 時代の波に乗り始めた矢先

昭和20年代後半、戦争で受けた痛手や戦後の混乱期を乗り越えた高松組は、映画館や商店、工場などの建設を手がけ、ようやく事業も軌道に乗り始めます。日本の建設業も、ブルドーザーやパワーショベルなどの機械化が進み、本格的に近代化していきました。経済白書に「もはや戦後ではない」と書かれたのもこの頃のこと。高松組としても、「さあ、これからだ!」というときに、創業者・高松留吉の急逝という苦難が訪れます。

02 大正の「建設」事情

大正時代の「建設業」は、「土建(土木建築)業」と呼ばれていて土木が中心。工事のレベルも今とは雲泥の差でした。たとえば、当社が施工した北野高校の運動場の造成工事。今ならトラックで簡単に土を運搬できますが、当時は牛車で千里の山から山土を運搬していました。しかも、牛一頭につき人ひとりがついて歩く地道な作業の繰り返しです。まさに「牛歩の歩みも千里」を地でいくような話です。

TakaMatsu

THE HISTORY

100年の軌跡と101年への布石

はじまりは、町の小さな建築屋。
技術をつなぎ、信頼をつなぎ、想いをつないできた歴史も
気がつけば100年になりました。
創業から現在、そして未来へ。
高松建設が何を考え、どのようにして歩んできたのか。
皆様に知りたい歴史が、ここにあります。



始動期

少しずつ仕事も会社も規模を拡大。
全国展開企業への道を歩み始める。



センチュリー・オーケストラハウス

04 企画提案営業の原点

この頃、住宅金融公庫の賃貸住宅建設融資は、煩雑すぎる申込手続を理由に、多くの人が断念している状態でした。他の建設会社も諦めて、金利の高い銀行融資を勧めているなか、この状況を何とかしたいと思った当時の社員は、手続方法を独学で勉強。お客様の手続を代行し、将来の収支を含めた具体的な事業計画を提案することで、お客様に大変喜ばれました。これが、ただ建てるだけではなく、お客様の希望を叶える事業提案から行う「コンサルティング営業」の始まりであり、賃貸マンションを柱とした、土地を有効活用する企画提案営業の始まりでもありました。まさに、当社の原点ともいえる出来事です。



住宅金融公庫融資物件第一号マンション

1965
(昭和40)

「株式会社高松組」に
法人改組(資本金300万円)



1972
(昭和47)



1976
(昭和51)

設計・施工一貫体制の
基礎を築いた
「グリーンパークハイツ」竣工
住宅金融公庫
融資物件
第一号マンション着工

1983
(昭和58)



東京支店(現東京本店)を開設

1986
(昭和61)

埼玉支店開設

1990
(平成2)

「高松建設株式会社」に
社名変更

1991
(平成3)

名古屋支店開設

1992
(平成4)

新社章・ロゴマーク制定
大阪に「やまと建設(現高松テクノサービス)」を設立

1993
(平成5)



大阪に「日本建商(現高松エスティート)」を設立
「センチュリー・オーケストラハウス」が
第34回BCS賞(旧建築業協会賞)受賞

1994
(平成6)



07 いよいよ東京へ進出

関西で磨き上げた企画提案型のビジネスモデルは、関東でも通用するのか。東京支店の開設は、大きな挑戦でした。関東での実績は、もちろんゼロ。ただ、お客様の悩みを解決し、夢をカタチにするのに関西も関東も違いはないはず。専務以下4名だけでスタートし、必死の営業活動が続きます。やがて少しずつ結果がついてくるようになり、人員も増加していきました。この東京支店の成功により、当社は全国展開企業への第一歩を踏み出したのでした。



08 お客様のために新会社を設立

建てた後のことには無関心。そんなことを気にするよりも、どんどん建てろ。そんな会社が多かった時代に、設計・施工に一貫して責任を持つスタイルだった高松建設は、建物の品質だけにとどまらず、建てた後のメンテナンスや入居付け・建物管理にも責任を持とうと考えます。「やまと建設」と「日本建商」は、そうしたお客様への責任感から設立された会社なのです。建物としても、事業としてもアフターケアを徹底し、建てた後もお客様のよりよいパートナーとして共に歩み始めました。



06 すべては技術研鑽のため

1969年頃から、ビルや工場の建築といった当時としては大型のプロジェクトも動きはじめ、1970年代は、賃貸マンションを手がける一方で、官公庁などの仕事にも力を入れていました。そうやって、さまざまなジャンルの建物を手がけることで、建築施工技術に磨きをかけていきました。さらに、当時技術No.1といわれていたゼネコンの下請けに自ら入ることで、その技術力を貪欲に学んだりもしていました。各々の現場から帰社した若手社員たちが、すぐにまた他の現場の応援に向かう。作業着とバジャマさえあれば事足りる。それほど社員全員が、がむしゃらに働いていた時期でした。こういった研鑽の日々が、現在の高松建設の基礎をつくり上げたのです。



発展期

時代の流れに合わせてM&Aを敢行。
多様な専門性を持つグループへと成長していく。



高松建設 本社ビル(淀川区西新町)

1995
(平成7)

神戸支店開設

1996
(平成8)

本社ビル完成
本社を現住所
(淀川区新北野)に移転

1997
(平成9)

東京に「やまと建設
(現高松テクノサービス)」を設立
大阪証券取引所市場第一部上場

1999
(平成11)

京都支店開設

2000
(平成12)

東京証券取引所市場第一部上場
(日本オーナーズクラブ)を設立

2002
(平成14)

青木建設と小松舗道
(現あすなろ道路)をグループ化

2004
(平成16)

青木建設と青木マリーンをグループ化
GWA(Green Wood Alliance)発足

2005
(平成17)

あすなろ建設と青木建設が合併し、
「青木あすなろ建設」に社名変更
東京・大阪両証券取引所市場第一部上場

2006
(平成18)

世界最古の企業、金剛組をグループ化
「大和ロック」が設立
「JPホーム」を設立

2007
(平成19)

中村社寺をグループ化
持株会社制へ移行し、
高松建設と青木あすなろ建設が両輪となり、
互いに切磋琢磨することで、グループ力の向上を目指す。

2008
(平成20)

みらい建設工業、みらいジオテック、
テクノマリックス、エムズをグループ化

2009
(平成21)

高松建設と青木あすなろ建設が両輪となり、
互いに切磋琢磨することで、グループ力の向上を目指す。



高松コンストラクショングループ
ロゴマーク



高松コンストラクショングループ
奔足出陣の新聞広告

11 あすなろ建設と 青木建設がひとつに

2004年4月、業界を取り巻く経営環境は厳しくながらも、両社の得意分野である技術力や営業力などを互いに補い合うことで、さらに存在感を發揮する建設会社へ合併。「青木あすなろ建設」として、復旧・復興関連工事や生活インフラ整備など社会的課題に取り組むとともに、グループとしてもより活躍のフィールドを広げる契機となりました。



10 初のM&Aを敢行

2000年、建設業界では上手くいかないといわれていたM&Aを敢行。大型工事・海洋関連事業の小松建設工業と小松舗道のグループ化は、それぞれの強みを補完し活用することで、事業の拡大と収益性の向上を目指すという前向きな試みでした。このM&Aを機に、当社は連結売上1000億円を担う企業集団へと成長。2002年には、民事再生法を申請していた青木建設もグループ化し、さらに規模を拡大していました。まさに、バブル崩壊後、建設投資の急減による競争激化で収益性が著しく悪化していた建設業界において、確固たる基盤を築く再成長へのターニングポイントになったといえます。

09 阪神・淡路大震災での被害ゼロ

1995年1月17日5時46分、近畿一帯は震度7という大地震に襲われます。約30分後には社長が出社し、すぐに災害対策本部を設置。車両や自転車を使って、お客様の安否やお困りごとがないかの確認作業に奔走しました。「今、自分達になにができるのか」を考え、水や食料などの救援物資の提供、仮設住宅や仮設風呂の設置、公共浴場や病院の仮補強などに社員一丸となって取り組み、高松建設の行動力が思わず形で役立つことになりました。阪神間で高松建設が施工した建物は108棟。当時から15%の余裕を持たせて構造設計を行っていたため、108棟中107棟が被害ゼロ。残る1棟も外階段の一部が損傷しただけで構造的には問題なく、簡単な修復で安全評価となりました。周辺のRC建築が倒壊・損壊する中、固らずも高松建設の安全性が立証されることになり、これを境に建築基準法の1.15倍の構造設計は、高松建設の標準となりました。



震災当時の当社施工マンション

12 「金剛組を潰したらあかん」1400年への敬意

2005年の夏頃から、全廟組の救済話が浮上。当時、高松建設の会長だった高松幸貴は全廟組の経営危機に関する話を耳にし、「全廟組を潰したら大阪の恥や。古いものは一度なくしてしまうと二度と元に戻すことはできない」と支援に乗り出しました。そして2006年、全廟組は高松コンストラクショングループの一員として再出発を果たすことになります。1400年の間に脈々と受け継がれた全廟組の志や技術は、社寺建築を通じて日本の伝統文化に貢献するだけでなく、各グループ会社のモチベーションアップにもつながっています。



GWAシンボルマーク



高松建設の未来へ向けたプロジェクト



賃貸マンションの設計・施工はじめ、工場や病院、オフィスビル、

ホテル、高齢者施設など、さまざまな事業を展開してきた高松建設。

時代とともに事業内容や規模は変わっても、お客様の満足のために努力を続ける

「お客様第一主義」の心が変わることはありません。

最後に、101年目からの高松建設をカタチづくっていく現在進行中のプロジェクトをご紹介いたします。

高松建設 × 青木あすなろ建設
初の本格共同プロジェクト

国内最大級の物流施設「DPL流山」



「DPL流山」は、総敷地面積約182,000m²、総延床面積約387,000m²(東京ドーム約8.2倍分)を誇る国内最大級の物流施設。全3棟の施設を建設予定で、現在は1棟目を建設中です。託兌所やコンビニエンスストアを完備し、免震システムや非常用自家発電機も導入するなど、防災配慮設計の施設になっています。高松建設と青木あすなろ建設の技術とアイディアをかけ合わせながら、2018年2月の竣工に向けて現場員一丸となって最高品質を追求しています。



ホテル「Prefort Seimakutei」
2018年4月オープン予定
JR西明石駅、新幹線口すぐの便利な立地に、居心地のよさにこだわったスタイリッシュなホテルを建設中です。



介護老人保健施設「桔梗苑」
イベントでの利用を想定した屋上など、地域に根ざした施設を目指して、培ったノウハウをもとに建設中です。



賃貸マンション「揖津本山マンション」
神戸の街並をやさしく彩る、グリッドで構成したシンプルなデザインが美しい賃貸マンションを建設中です。

13 最高水準の技術研究所

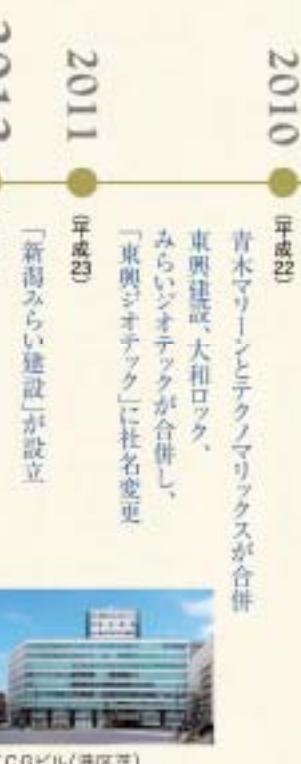
2014年4月より、グループの共有資産研究所として、共同利用をスタートした「TCG技術研究所(茨城県つくば市)」。同等クラスのゼネコンの研究所としては最高水準を誇ります。もともとは、青木あすなろ建設が所有する技術研究所でしたが、グループ全体で活用する方針へと転換することで、さまざまな得意分野を持つ各グループ会社の人的資源やノウハウが集結する場所に。社会インフラの老朽化対策や長寿命化対策・防災・環境技術の開発などに力をいれた研究開発を行うなど、日々、建設の明日を見据えています。



技術
研究所
所長



大型実験棟



未来へ

多様な専門技術を持った
特色あるゼネコングループとして
さらなる発展を目指していきます



創業100周年の
記念ロゴとスローガンは、
グループ全社員から公募し、
選ばれたものです。

想いを繋ぐ。心に響く。

TCG
高松コンストラクショングループ

高松コンストラクショングループ
新ロゴマーク・スローガン

14 サービス付き高齢者向け住宅ブランド「エニシエ」の誕生

2015年11月、高松建設が企画設計・施工を行い、高松エステート(大阪)が介護事業者として住宅運営や介護サービスの提供を行う「エニシエ川西加茂」が兵庫県川西市にオープン。高松建設は、従来から高齢者施設への土地活用のご提案をしてきましたが、少子高齢化や高齢単身世帯の増加などの社会環境の変化を鑑み、高松建設グループとして設計・施工・介護サービス運営を一括サポートすることに。高齢者施設を数多く手がけてきた高松建設の実績と賃貸マンションの入居募集・管理をしてきた高松エステートのノウハウを連携させ、「エニシエ」ブランドを展開していきます。



エニシエ川西加茂

2015年1月、技術研究所内に
「テクニカル夢工房」がオープン!
安心・安全・快適につながる
技術をご覧いただけます。